


平成 30 年度 研究サマリー

研究会名称	日本長期腹膜透析患者における排液中の各種マーカーと EPS との関連の 縦断的評価研究 (以下 Japan Fluid Study)
代表者所属	東京慈恵会医科大学附属病院 客員教授
代表者氏名	川口良人 
研究方法・結果	<p>1. サンプルストック (−80 度) の保存継続</p> <p>2. 英国との 1 回目から 7 回目の測定の手合わせ作業</p> <p>3. 貯留時間別データ作成 (済み)</p> <p>4. 英国へ貯留時間別データ送付 (済み)</p> <p>5. 英国でのデータ解析(依頼中)</p> <p>以上活動報告とさせていただきます。</p> <p>現在、英国からの最終データ解析結果を待っているというのが現状です。</p> <p>昨年、来日した Nicholas Topley 教授を通じての、サンプル解析は、英国の諸般の事情から、その進行が進んでいないようであり、国際学会で英国の Simon 教授らに会った際に、直接、再度依頼した。</p> <p>具体的な問題点：貯留時間によって、排液中のサイトカイン濃度が変化しうるため、貯留時間が異なる検体間のバラツキを、統計学的に補正しているとのことですが、サンプル間の貯留時間がまちまちであるため、そのモデル作成に時間がかかっているとの連絡を英国から受けております。</p> <p>引き続き JFS の完遂に向け鋭意努力致します。</p>
研究成果 (論文、学会発表、雑誌掲載等)	なし